

「都市空港」から「空港都市」へ

香港貿易発展局 東京事務所長 伊東 正裕

1998年7月に開港した香港国際空港（HKIA）は、世界人口の約半分へ5時間以内にアクセス可能という地理的優位性を活かし、2019年時点で120の航空会社が220都市との間で1日1,000便以上のフライトを運航、航空貨物取扱量世界第1位（480万t）、国際旅客利用者数世界第3位（7,150万人）というアジア有数のハブ空港である。

2011年6月、香港空港管理局は「マスタープラン2030」を発表、2030年以降の需要に対応するために、土地の埋め立てと第三滑走路の建設を含む主要プロジェクトが示された。埋め立て総面積650ha、第三滑走路の全長は3,800mで、既存の2本の滑走路の北側に平行に設置される（2022年11月運用開始）。そのほか、新規旅客コンコース（28万㎡）と駐車場の建設、第2ターミナルの拡張工事（年間3,000万人の旅客に対応）、第2ターミナルと新旅客コンコースを結ぶ統合メンテナンスデポを備えた全長2,600mの新APMシステムの建設、新規バゲージ・ハンドリング・システムの導入、HKIAと香港内および中国間の接続性向上のための総合道路網と各種車両に対応した複合交通施設の建設も順次進行中で、2035年までに旅客数1億2,000万人、航空貨物取扱量1,000万tを達成することを目標としている。

HKIAは、これら基礎インフラの整備にとどまらず、隣接施設の充実化を図り、「都市空港」から、「空港都市」へ変貌しようとしている。DHLやアリババグループによるエアカーゴセンターや生鮮食品を扱う低温管理倉庫の新設、アジア・ワールド・エキスポの第二期工事、宿泊施設の増設（東涌エリアも含め6ホテル体制へ）、香港最大の小売・飲食・娯楽の複合施設「11 SKIES」の

建設も進んでいる。

2022年11月には、第1ターミナルとサテライト・コンコースを結ぶ象徴的な施設「スカイブリッジ」がオープン、空港の誘導路をまたぎ、全幅200m、高さ28mの世界最長のエアサイド・ブリッジは、A380などの大型旅客機がその下を通過できる。橋の外壁と床はガラス張りになっており、訪問客は足元を航空機が通過するという非日常的な体験を楽しむことができる。

香港経済の成長エンジンとして、広東・香港・澳門大湾区（GBA）の中心空港としての役割を担いつつ、アジア太平洋における最高峰の国際ハブを目指すHKIAの進化から、今日が離せない。香港を訪問される方は、是非「空港都市」としてのHKIAを存分にご堪能いただきたいと思う。

出典：HKIAホームページ <https://www.hongkongairport.com/en/>



2023年9月発行（禁無断転載）

目次

「都市空港」から「空港都市」へ	1
各界で活躍する香港日本人学校OB・OG 第2回	2
約4年ぶりを感じた、変わった香港・変わらない香港	4
私と香港ビジネス—The Story of Serendipity—	5
駐東京香港経済貿易代表部設立35周年	6
香港ブックフェアジャパンバビリオン 現場レポート	7

連合会・各協会便り

全 国：アジアフォーラム2023 バンコク	8
東 京：ドラゴンボートレース参戦記@横浜山下公園（2023年6月4日）	9
関 西：香港ビジネスセミナー開催/法人会員交流会開催	10

九 州：令和5年度「香港都会大学・嶺南大学 日本インターンシップ」の報告	11
山 形：日本のギフト文化を海外へ	12
北海道：依然高い北海道人気/北海道から香港への進出ニュース	13
宮 城：「香港ビジネスディナーセミナー2023」を開催	14
沖 縄：沖縄 夏スイーツフェア開催/日本沖縄物産まつり開催 香港国際旅行博覧会に沖縄県がブースを出展 2023年 香港スポーツ・レジャー・エキスポに出展	15
広 島：広島日本香港協会令和5年度通常総会/総会後の交流会実施	16
新 潟：新潟日本香港協会 令和5年度講演会・懇親会を開催	17
高 知：『らんまん』で賑わう高知県/本年度はより活発に活動	18

かつて香港日本人学校に通ったOB・OGで、現在第一線で活躍する人たちに香港の思い出と今の仕事を聞きました。

ゲスト：長島 巖さん（三菱UFJ信託銀行 社長）
聞き手：平野純一（NPO法人日本香港協会広報委員）
伊東正裕（NPO法人日本香港協会広報委員）



長島 巖さん

——（平野）香港日本人学校に通ったのはいつごろでしょうか。

長島 小学5年から中学1年までの3年間で、1973～75年です。最初はコースウェイベイ（銅鑼灣）にあったタワーコート校舎に通い、小学6年の途中で、少し山の上のブループールロード（藍塘道）にできた新校舎に移りました。1学年1クラスで、こぢんまりして家庭的な学校という印象でした。

当時はあまり意識しませんでした。今振り返ると、先生は非常に熱心で、優秀な方が多かったと思います。担任でお世話になったのは、5年が栗田正之先生、6年が小松吉隆先生、中1が益子洋先生で、深く思い出に残っています。

——（平野）クラブ活動は何をしていましたか。

長島 プラスバンド部に入り、私はアルトホルンを演奏しました。同級生も何人か金管楽器をやっていました。放課後に学校に残って一生懸命練習しましたね。顧問は鹿児島から来られた小村寿一先生でした。やはりすごく熱心な先生で、小村先生が日本で指導された学校は全国大会で何度も上位に入った、すごい先生だと聞いていました。

——（伊東）小村先生は確か、明治政府の外相を務めた小村寿太郎の子孫ですね。

長島 それは知りませんでした。小村先生が「一緒にやろう」と生徒を勧誘して部員も増えていったと思います。九龍側のホールで、現地の中国系やイギリス系などさまざまな学校が参加する演奏会にも出演して、非常によい思い出になりました。そういう発表の場も小村先生が開拓されたようです。

◆ 香港は成長していると感じた

——（平野）香港の街の思い出はいかがですか。

長島 最初の印象は、湿気がすごくて蒸し暑いところだなと思いました。私が行った70年代の香港は、日本に比べるとまだ貧しかったなと感じました。一方で、当時はイギリスの植民地でしたし、西洋風の文化は非常に新鮮に感じました。

当時はセントラルのコンノートセンタービル（現ジャーディン・ハウス、地上52階）が一番高く、それ以外にはそれほど高いビルはあまりありませんでした。街はごちゃごちゃとしているし、古い市場も何か所もありましたね。ただ、エネルギッシュな街だし、住んでいた3年間で、香港はどんどん成長しているのだなということは、子供ながらに感じていました。

私は飛行機が好きなので、啓徳空港にはよく飛行機を見に行っていました。家族でレパルスベイ（浅水湾）に泳ぎに行ったことなど、どれも楽しい思い出です。あと、九龍城には密かに興味がありました。もちろん、絶対に行ってはダメだと言われていましたし、子供一人で行けるはずもないのですが、行くなと言われても逆にどんな場所なのだろうと好奇心がわきます。怖いもの見たさですね。ちょっとだけ行ってみたかったなと今でも思います。

——（伊東）子供のころの海外経験は香港だけですか。

長島 3歳から6歳までロサンゼルスに住んでいました。ダウンタウンから少し北東に行ったパサディナという街です。その時は現地校に通い、小学1年の途中で日本に帰ってきました。まだ小さかったので、あまり覚えていませんが、香港に行く前に、「外国とはこういう所」という感覚はあったと思います。

◆ 外国人が周りにいるのが当たり前の環境

——（平野）ロサンゼルスと香港の海外生活が、その後の人生に活かしたことはありますか。

長島 日本人でない人と日常的に接するという経験は貴重でした。世界にはいろいろな人がいて、考え方も生活習慣もみな違う。そういう人がいることが普通なのだという感覚が身についたことは非常に良かったと思います。



正面左が長島さん。右は同級生の友田啓介さん



同級生と取まった1枚。前列右から2人目が長島さん

——（伊東）それは、三菱信託銀行（当時）に入ってから同じですか。

長島 私は入行後、運用畑を長く歩きました。マーケットはまさにグローバルなので、世界が相手です。外国人と一緒に仕事をしますし、お客さんにも外国人がたくさんいます。日本人の考えだけでは通用しないという感覚はさまざまな場面で活きました。

社長には2020年4月に就任しました。外国企業とのお付き合いも多いですが、何か事業を一緒にやろうとする場合も、当然、こちらの都合だけを言ってはだめで、相手の立場や国情などを考えなければなりません。そういう時に、小さいころに海外にいて身についた国際感覚は何かしら役に立っていると思います。社員にも、国際化の時代は日本の理屈だけでは通用しないということは折に触れて言っています。

——（平野）キャリアのなかではロンドン駐在も経験していますね。

長島 2002年から07年まで5年間住みました。40代前半のころです。香港上海滙豊銀行（HSBC）はイギリスが発足させた銀行ですが、そこに勤める人と話す時に「私は小さいころ香港に住んでいました」と言うと、皆さん驚いて、私のことを覚えてもらえるし、「話のネタ」としては最高です。

ロンドンへは妻と長女、長男の4人で行き、長女はロンドン日本人学校に通いました。小学4年から中学2年までです。長男はまだ小さかったので現地の幼稚園と小学校に通いました。

——（平野）お嬢さんは、長島さんが香港にいた時と同じくらいの年齢ですね。

長島 確かにそうですね。振り返ってみると、娘は最初からロンドン日本人学校に通わせようと思っていました。自分もかつて通ったから「日本人学校とはこういうところ」と肌感覚で知っていたからかもしれません。

◆ 昔の香港の話をするると驚かれる

——（平野）香港へは帰国後に何度か行っていきますか。

長島 数回行っていきます。当行の香港支店に行く機会もあり、昔住んでいたころの話をするたびびっくりされます。今支店で働いている現地のスタッフでも、70年代の香港を知っている人は少ないのです。

十数年前に行った時は、かつて住んでいたフラットに行ってみました。ただ、道の途中に昔はなかった警備のゲートがあって、車を止められてしまいました。「私は昔ここに住んでいたのですが、少し見たいのですが」と言いましたが、入れてもらえませんでした。家の住所は「司徒拔道46號（シードウバッドウ セイサップロウウ）」と今でも広東語で言えます。タクシーで帰る時は、運転手に必ずこれを言わなければいけませんでしたが、これは忘れません。

また、私が住んでいたころに比べて、香港が豊かになっていったのには驚きました。街を車で走っていて信号で止まった時に、隣に止まった車はメルセデスで、中国系の女性が小学校低学年くらいの子を乗せていたのですが、その子はすごくキレイな制服を着て、見るからにお手持ちの家族という感じでした。昔はあまり見たことがない光景でしたので、時代は変わったんだと感じました。

——（伊東）さらにこの10年で香港はもっとリッチになって、日本に来る香港人は、物価は安いし円も安いので、日本のものを爆買いして、高くておいしいものをたくさん食べていますね。

長島 残念ですが、逆に日本はだんだん国力が落ちて、香港やシンガポールの方が豊かになったのでしょうか。もちろん日本も豊かですが、相対的に差は縮まりました。

——（伊東）香港は国家安全維持法施行後も、金融機能やビジネス環境は何も変わっていないのですが、日本にあまり正確に伝わっていない気がします。

長島 香港は、一国二制度のもと、今でも法律はコモローなので、この部分は世界の国々とビジネス関係を築くうえで大きいと思います。そこは香港政府もアピールして、企業誘致などをもっと頑張ってもらいたいですね。

——（平野・伊東）日々ダイナミックに変わっていくのが香港という場所ですね。本日はありがとうございました。



左から伊東、長島さん、平野

約4年ぶりで感じた、変わった香港・変わらない香港

NPO 法人日本香港協会（東京） 広報委員 隅田 香織

香港国際空港の到着ロビーを出た瞬間、目の前にある焼味のお店から懐かしい香港の香りがしました。それを嗅いだ瞬間「やっと香港に帰って来れた！」と涙が出そうでした。コロナで渡航できない間、オンライン旅行の開催や参加で「今の香港」の風景は目の当たりにしてきましたが、「匂い」だけは想像するしかなかったのです。

2023年5月、私は約4年ぶり香港に行ってきました。行けなかった間の思いを発散させるべく、私は今回、1週間ほど滞在することにしました。渡航前に「何をしたいか？」「どこへ行きたいか？」「何を食べたいか？」「誰に会いたいか？」を思いつくまま付箋に書き出したり、久しぶりの香港旅行を準備段階から楽しみました。

久しぶりの香港はどれだけ変わっているのか？変わっていないのか？これが今回、とても気になっていたところでした。

空港に到着して一番最初に驚いたこと。それは「トイレの洗面台」でした。手をかざすだけで右から石鹸、水温風が出るようになっており、何に触れることなく手を洗って乾燥させることが出来たのです。似たようなシステムは街のトイレでも多く見かけました。同様に、キャッシュレス化もさらに進んでいました。オクトパス（八达通）で支払いできるお店が、以前にもまして増えていました。タクシーでもオクトパスが利用できる車両が非常に増えているようです。クレジットカードは小さな飲食店でも多くで利用でき、しかもタッチ決済が出来るお店がほとんどでした（日本はまだ差し込みやSwipeが多く、暗証番号やサインが必要）。非接触でトイレの洗面台が利用できたり、支払い決済できるのはコロナの影響なのかと思います。



空港内にあった非接触型の洗面台にはビックリ

街の雰囲気として、尖沙咀などの観光地はお店が大きく入れ替わっているのを感じました。観光客の受け入れが再開されたこともあり、観光客向けに気軽に香港の食文化を楽しめる「茶餐廳」「冰室」「点心専門店」が増えています。「茶餐廳」などローカルなお店は香港に慣れていないと利用しにくいイメージがありますが、初めての香港旅行でも誰でも利用しやすいような雰囲気やシステムになっているようで、これはいいなと感じました。また、香港の象徴ともいえるネオンサインは激減してい

ました。これは10年くらい前から少しずつ撤去されていましたが、コロナ禍でさらに激減していたのはとても寂しく、時代の流れを感じました。



1週間滞在した土瓜湾の街はどこか懐かしい雰囲気でした

多くの変化を感じましたが、それはコロナを経験したことと時代の変化が多かったように思います。もちろん、変わらない香港もたくさんありました。

今回、私は土瓜湾という九龍半島の街に宿泊しました。観光地ではないエリアですが、地元の人たちが生活していて活気もあり、ガイドブックに載っていないお店がたくさんあり、ローカルが大好きな私好みの街だったので。滞在中に私は「この街に暮らすように滞在してみよう」と思いついたのです。特にあちこちに出かけるわけではなく、ホテル近くを散策して気になるお店に入ってみたり、毎朝同じ茶餐廳で朝ごはんを食べてみたり。地元の人でにぎわう昔からあるお店、昔からほとんど変わっていないような街並み、そういうのがたくさんありました。そんな街に滞在中、全く変わらないなあと思ったのは「香港人」です。

ホテル前の毎日通った茶餐廳ではおばちゃんが「今日も来たね！何を食べる？」と話しかけてくれたり、コンビニでSIMカードを購入したら店員さんが「システムが変わったのよ！これはこうするのよ！わかる？」と身振り手振りで教えてくれたり（2022年3月より、香港ではSIMカード購入時に実名での登録が必要となりました）。ちょっと困っていると話しかけてくれる香港人のおせっかいで温かい部分は健在でした。それに触れたとき「ああ、こういう香港人との触れ合いが好きで香港に通っているんだよなあ」と思い出しました。

1週間滞在は長いと思いましたが、実際滞在したらあっという間でした。特別どこに行くわけでもなく久しぶりの香港の街、空気、人、匂いを満喫でき、香港にいてだけで幸せを感じました。

また、香港に帰るのが楽しみでしかたありません。

〈プロフィール〉

隅田香織／NPO 法人日本香港協会広報委員。ブログ「香港ウンチク話」管理人。日本から大好きな香港情報と日本で楽しめる香港情報を発信中。2021年7月より1年半に渡り、HIS香港主催「香港オンライン旅行」を12回開催。

私と香港ビジネス — The Story of Serendipity —

NPO 法人日本香港協会（東京） 理事 大村 良幸

◆私と香港のミラクルな軌跡

夢や志がある人にとって、香港はチャンスとミラクルに溢れている絶好の場所ではないでしょうか。これまでの私の香港生活は、偶然の出会いやチャンスに導かれた、あつという間の36年でしたが、それでもまだ長い道のりのほんの中間点でしかなく、自分の想像力を遥かに越えるダイナミックな体験が、これからますます続くだろうとワクワクしながら毎日を送っています。

さて、香港に来たきっかけは、大和証券への入社です。駐在員として1988年のバレンタインデーに香港啓徳空港（旧空港）に降り立ちました。私の人生で、とても大切なものの一つが家族です。家族の原点となる妻とは大和証券時代に日本で出会いました。考えて見れば妻や香港との出会いを与えてくれた会社に入社したことが、私の人生最大のミラクルだったと言えるかもしれません。妻とは香港赴任中に結婚し、香港で生まれ育った娘は現在イギリスで働いています。

香港駐在5年を終えた頃、帰任の辞令が出ました。ところが、日本へ帰国後ほどなく、若気の至りで会社の営業方針に疑問を持ち、退職願を出す事になります。私が退職を考えていたちょうどその時、まるで仕組みられたかのようなタイミングで、香港での就職話を持ちかけてくれた人がいます。私の心の内を知る由も無い人からの突然のオファーに驚きましたが、その人との出会いも、偶然そのものでした。私は当時中国株の担当をしており、しばしばお隣の深圳へ行っていました。その深圳行きのバスでたまたま隣に座っていた方こそ、その転職話を持って来てくれた人であり、私の未来のボスになった人です。彼はシンガポールに本社を置くDBS証券の香港支社長で、そんな人からの誘いに色々な縁を感じた私は、帰国の荷物を解かないうちに香港へ舞い戻ることになりました。人生どこで何が起るのか、本当にわからないものです。

それからというもの、私は香港の金融業界で様々なポジションに携わることになり、多岐にわたる経験を積んだことが、現職で日本人のお客様のお役に立つことにつながり、その幸運にとっても感謝しています。ただ、これまでの36年を振り返れば、必ずしもいつも順風満帆であった訳ではありません。香港でまさに天国と地獄の両方を何度も経験しました。でも不思議なことに、「必要な時に必ず必要な人が現れ」、「いつも誰かに助けられ」、何かに導かれるように今に至っています。

◆「お金がお金を産む都市香港」で創業54年目の地元 の大手金融機関に

現職のエバーブライツ証券インターナショナル（香港）についてお話しします。創業1969年、不動産開発やその他多くの事業を手掛ける新鴻基（サンフンカイ）

グループの一員としてスタートし、「金融のことなら何でもお任せ下さい」と言う総合金融会社の役割を担っています。私は、ジャパンドeskにて、証券、保険、海外送金など、多種多様な金融サービスを、富裕層と言われる方から普通の会社員、主婦の方まで幅広い（日本人の）お客様に、ご提供しています。

社員1,000人の現地企業でうまくやるコツは何ですか？とよく聞かれます。社内に私に賛同してくれる人が5~10人いれば、彼らの協力で大抵のことは解決ができます。そんなアメーバ的な、惑星間の連携的な協力体制が、部内、社内、社外と広がれば大きな力になると思います。彼らとの信頼関係は絶対です。その信頼を裏切らない仕事をする事、それに尽きると思います。

◆転がる香港に苔は生えない

「転がる香港に苔は生えない」という名前の本がありますが、まさにその通りではないかと思えます。香港の人々は多くの歴史の変化とともに歩んできました。どんな時も強くたくましく、臨機応変で快活。それが私の出会ってきた愛すべき香港の人々です。

お世話になっている香港に恩返しをしたい、そんな思いから数年前より香港のロータリークラブの一員として活動を始めました。

これからも、家族、お客様、会社の同僚、そして香港への感謝の気持ちを忘れることなく、生涯現役でここ香港で日々精進を重ねて参りたいと思います。



娘が働くイギリス・リーズにて。左から妻、娘と筆者

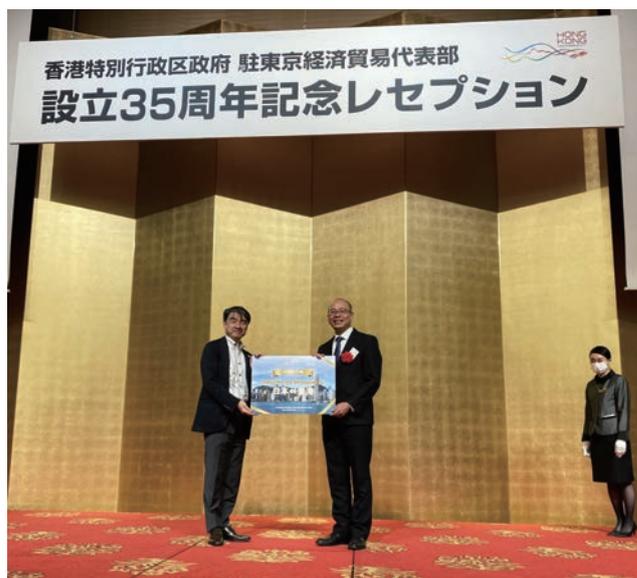
駐東京香港経済貿易代表部設立35周年

NPO 法人日本香港協会（東京） 広報委員長 小柳 淳

東京にある香港政府の在外事務所である香港経済貿易代表部（HKETO）は今年で設立35周年を迎えました。これを祝して6月19日に記念式典およびレセプションが開催されました。会場は港区のホテルオークラで、経済、政治、学術、メディアなど各方面から300名を超える方が参加しました。式典では日本を訪問中の香港政府商務・経済発展局の丘應樺（アルジャーノン・ヤウ）長官が香港側を代表しての挨拶で、東京の経済貿易代表部は世界中の代表部のなかでも早期に設立されたもので、香港と日本の経済貿易関係の密接さを示すものだと述べました。また、粵港澳大湾区（グレートベイエリア）の発展にも触れ、香港をゲートウェイとしたビジネスチャンスは広がっていると説明し、地域的な包括的経済連携協定（RCEP）に香港が加盟すればチャンスはさらに拡大するとも述べて香港の加盟を支持してほしいと訴えました。

日本側からは海江田万里衆院副議長等が挨拶。中華人民共和国の呉江浩駐日大使の音頭による乾杯でスタートし、その後なごやかなレセプションとなりました。また、レセプションでは香港への航空券キャンペーン「ワールド・オブ・ウィナーズ（World Of Winners）」の一環として、無料航空券が当たるラッキードローもおこなわれました。このキャンペーンは香港空港管理局が主催するもので、2023年3月から地域別に始まり、全世界で50万枚の航空券がプレゼントされます。日本では6月から、香港を拠点とするキャセイパシフィック航空、香港航空、香港エクスプレス航空の無料航空券3万8,000枚以上が提供されるものです。

香港は1997年以前には英国領、以後は中国の特別行政区ですが、外交と防衛などを除く経済・貿易・文化・スポーツ・交通などでは香港として独自の地位があります。APECやオリンピックには中国香港として参加します。香港経済貿易代表部は経済・通商事務を中心に各



記念レセプションのラッキードロー

国・地域の政府機関や民間団体・企業との対外窓口として、世界中に15か所（うち台湾は休止中）設置されていて、東京はそのうちのひとつとして東京都千代田区三番町にあります。また、香港投資推進局（Invest HK）の東京事務所が東京のHKETO内に投資推進室として設置されています。HKETOはヨーロッパに4か所（ベルリン、フランクフルト、ジュネーブ、ロンドン）、北米に4か所（ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントン、トロント）のほか6か所（ドバイ、バンコク、ジャカルタ、シンガポール、シドニー、東京）設置されていますが、アフリカと南米には設置がありません。大陸中国内にも経済貿易代表部と同様な窓口が16か所（事務所および連絡事務所）あります。この設置地区をみて香港の対外関係地域の濃淡が垣間見える気がします。なお、外交事務は中国政府の所管なので、香港のビザを発給するのは中国大使館となります。

HKETOが東京に設置された1988年は英国香港政庁の時代です。そのころは香港基本法起草の時期にあたり、同年6月には中国の鄧小平が返還後の香港について、中英共同声明にある50年不変に関して言及し、香港の人々の安心感と香港及び中国の安定と発展に必要なことであると語った時期でもありました。なお、香港にある世界各国・地域の領事館は120ほど、国際通貨基金（IMF）や国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、欧州連合（EU）事務所などの国際機関代表部も設置されています。



1988年の香港 中国銀行ビルは建設中

香港ブックフェアジャパンパビリオン 現場レポート

香港貿易発展局東京事務所 アシスタント・マーケティング・マネジャー 丸子 将太

みなさんは香港ブックフェアというイベントをご存じでしょうか。ご存じの方はよほどの香港通か、もしくは香港向けの観光インバウンド事業に携われた経験のある方ではないでしょうか。毎年7月に開催される香港ブックフェアは7日間の開催期間中、来場者数が約100万人という大規模イベントで、香港の夏の風物詩の一つとして昔から多くの香港の方々に愛されているイベントです。

名前の通り書籍を取り扱うイベントですので、会場では数多くの出版社そして書店が立派なブースを構え、書籍の販売を行います。他にも期間中は、新書発売会や、作家や著名人の講演会等各種イベントも行われており、朝10時から夜10時、週末は夜11時まで、会場の香港コンベンション&エキシビションセンターは老若男女問わず様々な年代の方でごった返します。



日本政府観光局（JNTO）によるイベント

そんな活気あふれる香港ブックフェアにジャパンパビリオンが誕生したのが2014年。ブックフェアをさらに発展させるため、新たな柱となったのが「日本文化」でした。我々の想像以上に日本のことをよく知り、そして日本を愛してやまない香港人に日本文化をプロモーションする場として生まれたのがジャパンパビリオンです。発足当初は書籍との関係性を考慮し、日本の漫画アニメのコンテンツを活用したプロモーション展開を行いました。徐々に香港人の日本旅行への高い需要にも対応できるよう、各自治体及び企業のインバウンドプロモーションの場としても利用されるようになり現在に至ります。

誕生からちょうど10周年となる今年のジャパンパビリオンには、北は青森県から南は沖縄県まで24地域の自治体及び観光協会に、在香港日本国総領事館、日本政府観光局（JNTO）、JTB香港、JR九州、三菱地所・サイモン（順不同・略称）が出展し、全20ブース315㎡とコロナ後最大規模となりました。

ジャパンパビリオンは、どの出展者も趣向を凝らしたブースづくりをしており、ブース内での体験型アトラクションやイベントも数多く設け、小さいお子さんや学生さん、そして我々大人も楽しむことができ、かつ実際に旅行で現地を訪れたくなるようなプロモーションを展開しています。観光パンフレット等で最新の現地情報をお



くまモンと壺侍のダンスパフォーマンス

伝えするだけではなく、壁面印刷や展示装飾物を工夫してSNS向けの記念撮影スポットを設置したり、アンケートの回答者に素敵な記念品を配布したり、様々な仕掛けを準備しています。

また今年は日本から多くのマスコットも会場を訪れ、くまモン、名探偵コナン、ゲゲゲの鬼太郎に加え、栃木県のとちまるくん、佐賀県の壺侍、宮崎県のむうちゃん、沖縄県の花笠マハエが集結し、ジャパンパビリオンにさらなる彩りを添えました。他にも青森県は著名なねぶた師の千葉作龍氏が実際に製作したミニねぶたの展示と金魚ちょうちんの体験コーナー、山形県と新潟県は登録者数100万人を超える有名YouTuber大J（Jason）氏の山形新潟旅行紹介講演を開催、総領事館は岡田健一大使出演によるジャパンパビリオンの宣伝映像の制作（こちらの映像は総領事館のFacebookでご覧いただけます！）や空手パフォーマンス、日本政府観光局は各種イベントに加え、テーマに沿った都道府県別旅行先人気調査を行うなど、非常に盛り沢山の出展内容となり、ジャパンパビリオンは夜遅くまで大勢の来場者で賑わいました。

コロナ後どの国・地域よりも日本の観光産業回復に貢献した香港人にとって、コロナ後の日本旅行は「返郷」とも呼ばれ、3年間のコロナ規制で行きたくても行けなかった日本に“返ってくる”意味合いも込められているそうです。また歴史的物価高での対香港ドルの強烈な円安が、更なる日本旅行への刺激となっています。香港人の尽きることのない日本への旅行欲を改めて体感した今回の香港ブックフェアでした。



栃木県ブーススタッフの方々



アジアフォーラム2023 バンコク

7月13日から14日2日間の日程で香港ビジネス協会世界連盟主催によりバンコクにて「Asia Forum 2023」が開催されました。今年は全面的なリアル開催となり、香港貿易発展局主催で同時開催されている「Think Business Think Hong Kong」とのスケジュールもForumのアジェンダに組み込まれておりました。

今回はバンコク市内中心部の大型ショッピングセンターに併設されているセントラルワールドコンベンションセンターにて開催されました。タイ王国の小売財閥企業であるセントラルグループの所有する施設であり、日本では同系列企業が今年7月に大阪進出した「センタラグランドホテル」も話題となっております。

◆ Think Business Think Hong Kong

初日の朝に行われたトークセッションは、アフターコロナにおける小売市場の未来について、テクノロジーを活用しビジネス革新を行うというテーマでした。コロナ禍においては、街のショッピングセンターから人はいなくなりデジタルテクノロジーの進化により買い物はオンラインで行うビジネスモデルが今後スタンダードになるのではないかとと言われておりました。しかし今日現在ショッピングセンターには人が溢れかえり賑わいを見せています。やはり人々はアクティブさを求めていることが証明され、今後はAIテクノロジーやメタバースなどを活用して小売業界は革新するだろうというKPMGコンサルタントとのトークセッションでした。また午後のセッションはライセンスビジネスがテーマで、多くの日本発信のコンテンツを活用した成功事例などが紹介されました。また香港発のキャラクターでブレイクしている「B.Duck」の Patent ビジネスモデルについては多くの企業が採用し、それぞれのプロモーション活用が効果的に行われている事例が紹介されました。

◆ ネットワーキングレセプション&ディナー

夕方からは今回事前に招待された来場者やエキスポ出展社、セッションスピーカー参加のナイトレセプション

パーティーとなりました。香港のダックやミルクティーの屋台などが並びそれぞれが活発なネットワーキングを行う場となりました。

その後アジア各国から Asia Forum 参加のBAリーダーはネットワーキングディナーに向かいます。ディナーの特別ゲストは香港政府商務経済発展長官丘應樺（アルジャーノン・ヤウ）氏。翌日の Asia Forum の参加メンバーをヘッドテーブルとし、この場所で初めての顔合わせが行われました。今回の参加国はオーストラリア、カンボジア、マレーシア、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、シンガポール、台湾、ベトナム、タイ、日本の11地域。このディナーではテーブルを囲みながらそれぞれの自己紹介やそれぞれの国の活動内容など多くの方々とのネットワーキングを食事とともに楽しみました。

◆ アジアフォーラム2023本番

そして2日目いよいよ Asia Forum 本編に臨みます。すでに前日のディナーやランチョンにて各国のBAの方々とはネットワーキングは完了しているため、和やかな雰囲気の中で会議は開始されました。冒頭のご挨拶に続き本題に入っていきます。今回のディスカッションテーマは「New Initiatives of Hong Kong Business Associations in 2023/2024 including Youth Engagement Plans」であり、いかにして若年層のビジネスアソシエーションメンバーを獲得していくかという内容でした。日本からも簡単な活動内容の説明に続き若年層スポンサーシップによるインターンシッププログラム活動状況やJHKSの若手メンバーが創業したバイオテックスタートアップ企業が香港政府助成金プログラムに日系企業として初採択されるなどの事例を説明しました。各国それぞれ若年層会員獲得のためのイベントを各種開催していますが、やはり参加して楽しめるアソシエーションでなければならぬとの共通認識を確認しました。

そして、最後には年末開催予定で今回24回目を迎える香港フォーラム2023に関するアップデートの説明があり、今年は12月5日から6日の開催で8月から早期割引料金（HK \$ 1,500→HK \$ 1,200）での参加申込が開始され、35歳以下の参加者はYoung Executive Passにて参加費はHK \$ 980になります。また、各種アワードプログラムの説明もありました。

コロナ禍から解放されたバンコクでの Asia Forum 開催は、Asia 各国のそれぞれの参加者がとてもオープンなコミュニケーション機会であったと感じます。また年末の香港フォーラムで皆様と再会できる事を楽しみにしております。



アジアフォーラム2023 バンコク 参加者

ドラゴンボートレース参戦記 @横浜山下公園 (2023年6月4日)

NPO法人日本香港協会 会員 吉田 功

前日まで台風2号による影響が気になっていましたが、当日は見事快晴に恵まれ、今年も無事に「横浜国際ドラゴンボートレース大会」が開催されました。

私が初めてドラゴンボートに出会ったのは、今から30年以上前になります。1990年4月から1993年3月までの3年間、当時の文部省から派遣教諭として香港日本人学校中学部に勤務しました。着任早々先輩教諭から香港日本人倶楽部のドラゴンボートチーム「日本龍」への加入を勧められてメンバー登録。大会前の週末には、アバディーン（香港仔）やスタンレー（赤柱）、タイタムベイ（大潭湾）などに集まって練習した記憶があります。本番の国際大会では、毎回多くの在留邦人の方々や観光客からの応援を受けながら、決勝進出を目指して地元の強者チーム相手に必死になって漕いだものでした（当時のユニフォームも記念に現在も保管しています）。

日本に帰国後は、川崎市の公立中学校に復帰しましたが、多忙な日々を追われ残念ながらドラゴンボートとは縁遠い関係になっていました。教師生活も定年を迎えフェイスブック上で「香港日本人学校OB・OG会」を知り、世話人の栗山理事から日本香港協会のドラゴンボートチームの案内を受け、昔の血が騒ぎだしたのか？歳甲斐もなく昨年からは漕ぎ手のメンバーとして参加させていただきました。

協会は、今年は「飛龍艇」、「鳳凰艇」の2艇をエントリー、今回は何と「鳳凰艇」の監督兼キャプテンを務めさせていただくことになりました。「鳳凰艇」は3分の2が初めての参加者でしたが、団結力は素晴らしく、みんなで声を出して頑張ったのですが、レース結果は残念ながら予選敗退でした。

レース後は中華街に移動、香港料理の名店「美心酒家」での懇親会では、皆さんの香港にまつわる話に大いに盛り上がりました。まさに熱く盛り上がる「熱盛！ドラゴンボート」の素敵な時間を過ごさせていただきました。来年も絶対参加します！



応援メンバーも含めた協会参加メンバー



疾走する「鳳凰艇」の雄姿

NPO法人日本香港協会 会員 土井迫 潮

私も、日本香港協会として参戦した2艇のうち「鳳凰艇」の漕ぎ手として参加させていただきました。

私は当協会の広東語教室に2009年から通う協会会員でもあります。2013年、2018年にも漕がせていただきましたので、今回で3回目の参加となりました。還暦をとうに過ぎており、漕ぎ手として十分に貢献できるのか不安もありましたが、自分も一度は参加してみたいという妻の申し出もあり、今回は夫婦二人での参加となりました。

前日まで台風で開催自体も危ぶまれましたが、当日は台風一過の晴れとなりました。朝6時50分の集合はちょっと骨が折れましたが、集合してすぐに準備体操、練習漕ぎと進むうちにだんだんと気合が入って来て、本番1回目には、世話人である栗山理事のお言葉「海と友達になってください」を実践すべく、水面上数十センチのところまで腰をかかめ、足を踏ん張りパドルを懸命に漕ぎ進みました。時折被る海水も気持ち良く、何よりも山下公園を横目に、氷川丸に向かって漕ぐというのは他では経験できないことです。成績は「飛龍艇」が19位、我々の「鳳凰艇」が25位と残念ながら上位に食い込むことはできませんでしたが、漕いでいる間の20人の一体感、完漕した後の達成感、ご褒美にいただく香港のCarbon Brewsビールの味と共に最高でした。

レース終了後の反省会の席で、わが「鳳凰艇」の吉田監督が、「水に濡れた借り物の木製パドルは重いな」とコメント、それを聞いたか聞かずか、参加されていた某航空会社の日本代表の方が「来年の開催時には新品のプラスチック製パドルを20本寄付します」と発言されました。これがリップサービスでなければ（笑）、来年は日本香港協会の専用パドルで漕げることになり、新たな歴史が生まれそうです！

その後、「美心酒家」で本場の香港料理に舌鼓を打ちながら一緒に漕いだ方々、応援に来ていただいた方々との香港愛溢れる交流会も忘れられないものとなりました。

来年の参加は自らの体力との相談ですが、むしろ若い方に積極的にチャレンジいただき更に香港に興味を持っていただきたいと思います。最後に入念な準備をしていただいた栗山理事ほか協会事務局の方々に感謝いたします。



香港ビジネスセミナー開催

去る7月14日に大阪国際ビルの17階セミナー室で「今とこれからの香港における商機を考える」をテーマにした香港ビジネスセミナーを開催したところ、88名の参加者で盛会でした。

今回のセミナーは、香港貿易発展局と関西日本香港協会の主催で、大阪商工会議所が共催し、日本貿易振興機構（JETRO）、大阪産業局、大阪国際経済振興センター、日中経済貿易センター、日中経済協会関西本部に後援していただいたので、非会員の皆さんが沢山参加してくれました。セミナーの狙いは、(1)貿易や金融のハブとして、又、中国や東南アジアを結ぶ機能を発揮し続けている香港、(2)グレーターベイエリア構想の下で発展している新しい分野（医療、環境、ITなど）の展開と優秀な人材の入境計画などの今後の展望、(3)元オムロン香港の総経理をされて今年に関西日本香港協会の理事に就任された山内崇生氏が取り組んでおられる香港との新しいビジネスの事例の紹介、の3点でした。



講演する山内崇生氏

講演1では、香港貿易発展局の大阪事務所長リック・フォン氏が「日本のメディアでは報道されない香港の今と将来」、講演2では、ヤマタカパートナーズの代表取締役山内崇生氏が「アジアのビジネス拠点・香港、香港からアジアへ、そして世界へ」と題した講演をされました。お二人とも各テーマの統計資料と豊富な写真を掲載した講演資料を用意され、情熱的な講演をされて沢山の参加者は大いに刺激されました。そのこともあり、講演終了後はいつになく沢山の人が名刺交換に並び、当日に数名の協会への入会申し込みがあったり、開会挨拶をされた戒田真幸会長にエレクトロニクス事業を行う会社社長から今後の対応について相談があったりしました。参加者に大きな刺激を与えたセミナーになりました。今後とも、マーケットに香港のプレゼンスを高める努力を続けたいと実感したセミナーでした。



講演するリック・フォン氏

法人会員交流会開催

当協会では、協会役員、香港貿易発展局職員と法人会員との交流を促進し、香港や中国、アジアとのビジネスへの理解を深める目的で法人会員交流会を年2回開催しています。去る6月7日に中国料理「錦城閣」で法人会員交流会を開催し18名の参加で楽しく有意義な会食を実施しました。今回は、食事に先立って、田岡敬造事務局長（元香港上海銀行大阪支店長）から昨今問題の多い「お金の問題」に関し、約30分間講演をしてもらいました。田岡氏は、「昨今の金融問題（私達の取るべきアクション）」と題した資料を用意され、昨今の経済状況の実情と要因、ヘッジファンドの動向と円安問題、国の財政問題の今後、などに関し詳しい統計資料も提供してくれました。今後、私達の取るべきアクションとしては、日本とアメリカの金利動向や外国為替の動きを注視し、マスコミ報道に左右されずに、又、金融機関の言う事を鵜呑みにしない心がけが大事で、外貨金融資産を持ってリスク分散することが必要であるとアドバイスされました。我々に身近で重要な問題に対しざっくばらんな話をされましたので、食事中にどのテーブルでも「お金の問題」で会話が盛り上がりました。



田岡等副会長の乾杯で会食開始



令和5年度「香港都会大学・嶺南大学 日本インターンシップ」の報告

今夏の福岡では祇園山笠に続き世界水泳が開催され、炎天下でも止まない盛り上がりを見せました。九州日本香港協会もおかげさまで仕事が絶えず、忙しい日々を送っています。

さて、当協会では毎年香港の大学生対象に「日本インターンシップ」を実施しております。今年は7月3日に香港都会大学と嶺南大学から22名の学生が来福し、2週間から5週間にわたるインターンシップが開始されました。今年度は大変ありがたいことにイオン九州株式会社、株式会社正興電機製作所、株式会社シーアンドイー、CURIOO株式会社、株式会社三好不動産、九州農水産物直販株式会社の6つの企業にインターンシップ先として香港学生を受け入れることをご承諾いただきました。昨年度までオンラインで開催されていた本インターンシップが今年度から対面となり、我々事務局も新たな課題に直面しながら、香港からの学生が無事日本で働き始めることができるように全力を尽くしてまいりました。

本事業は、課題解決型インターンシップとして、受け入れ企業にはインターンシップ課題を予めご用意いただき、インターン生にはその課題に対する解決策をインターン最終日に報告していただきます。インターン期間の前には1週間の事前研修期間を設け、香港の学生に日本で働く上で必要となる基本的な知識や日本語力を身につける機会としています。今年度は、当会の理事の味珍味（香港）有限公司主席であるフランキー・ウー氏、エリア株式会社の溝辺エリ子先生、株式会社Youiの原口唯氏、そして当協会事務局長であるチェにそれぞれ日本と香港の関係についての講義、日本語授業、原口氏にプロジェクトマネジメント研修、ビジネスマナー研修と、



7月15日 舞踊体験の様子

学生への指導をお願いいたしました。また、受け入れ企業毎に学生のチーム分けを行い、それぞれのチーム名・目標・課題を決め、企業担当者との顔合わせの際に発表いただきました。

そのほかにも、より日本の文化について学んでいただけるように、茶道体験、着付け体験、日本舞踊体験、陶芸体験など、複数の文化体験プログラムを実施しました。その際には茶道裏千家淡交会博多支部局長でもある、当会の石原会長、福岡文化連盟の日本舞踊講師の若柳氏、高取焼陶芸家である亀井氏を始めとする福岡の文化人の方々から多大なるご協力を賜りました。



7月21日 都会大学学生の最終報告会にて

事前研修期間が終了すると本格的にインターンが始まります。日本で働いたことのない香港の学生にとっては、通勤、職場環境、言語など全てが新しいことばかりで困難なことも多くあったかと思いますが、当事務局が受け入れ企業にインターン見学に訪れた際には与えられたインターン課題と真剣に向き合う香港学生の姿がありました。そしていよいよ7月21日、インターンシップ報告会を開催しました。今回、インターンシップ期間の長さは大学により異なっており、都会大学の学生は2週間、嶺南大学の学生は5週間となっております。そのため21日の報告会では都会大学の学生のみが発表しました。なお、報告会には受け入れ企業担当者の他に、遠隔から都会大学Ricky Kwok副学長、新華集団国際理事のBetty Chan氏も参加されました。残念ながら文字数の関係で報告会の全貌をここでご紹介することは叶いませんが、チーム毎にそれぞれのインターン課題、学んだこと、解決策について発表していただき、その後質疑応答の時間を設けました。どの受け入れ企業担当者も、大変温かいお言葉を学生にかけていただき、学生も励みになったことだろうと思います。我々としりまして今年度も無事報告会を終了できたことを大変嬉しく感じております。これからも気を引き締めて尽力してまいりますので今後もご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



日本のギフト文化を海外へ

リンベル株式会社は1987年7月にブライダルギフトの企画開発・販売会社として設立しました。「贈られた方が商品を選べる〈カタログギフト〉システム」を開発して以来約35年、雑貨品や食品、体験型ギフト等、幅広い用途のカタログギフトの企画・販売に努めて参りました。

また、弊社ではオリジナル商品の開発として、2015年より「日本の極み」「山形の極み」と称したプライベートブランドを立ち上げました。ブランドビジョンとして、真においしくて、質の高いもの、生産者の顔が見える「安心・安全」であるもの、大量生産ではなく希少価値の高いもの、旬の時期に生産、お届けできるものを掲げ、日本各地の選りすぐりの果物や農産物・海産物・加工品をオリジナル商品化し、パッケージデザインにもこだわり、約1,500アイテムを開発して参りました。

そういった中で今後の10年先を見据えた上で、海外への新たな販路の開拓を行う海外子会社リンベルインターナショナルを伊藤忠ロジスティクスとの合弁会社として2019年5月香港に設立しました。日本のギフト文化を海外へ発信するとともに、予約注文販売やカタログギフトにおいてメイドインジャパンの手に入りにくい、上質な果物や農産物・海産物・精肉加工品などを産地からお客様のご自宅まで直送する。海外にいながらにして、これまでにない鮮度で日本の味をお取り寄せできるサービスを「AIR GIFT JAPAN」と名付けました。このビジネスモデルは、弊社の「日本の極み」と伊藤忠ロジスティクスの持つ高い輸送品質と海外物流を組み合わせることで実現しております。

設立当初は、順調に事業スタートを切ることが出来ましたが、2019年6月に香港の民主化デモが始まり、収まりを見せたと思っていたところ2020年1月には新型コロナ

ウイルスが猛威を奮い、その期間は、日本から出張にも行けない状態が続きました。現地スタッフも営業活動もままならない厳しい状況で、特に法人ギフトの分野で、周年記念やアニバーサリーなど自粛ムードとなり、見込んでいた需要が大幅な減少傾向となりました。そのような状況ではあったものの、現地スタッフの頑張りもあり、リンベルを知っていただくための営業活動を地道に進めるとともに、可能な範囲で



龍龍龍龍(てつ)

展示会にも出展し、少しずつご注文をいただけるお客様を増やすことが出来ました。

そういった営業活動の中で、海外展開を行う上でも一番重要だと感じたことは、ブランディングと商品のローカライズです。海外で贈り物として弊社の商品を買っていただくためにも、リンベルという会社はどんな会社なのか、どういった商品を扱っているのかなど知っていただくことが重要だと感じました。また、ローカライズという点では、中華圏のギフト需要期でもある中秋節や旧正月に贈り物の定番はハンパーというアイテムであることを知りました。ハンパーとはフルーツやお菓子、珍味などを籠に入れ、ギフトとして贈る文化であり、現地のニーズに合わせた商品開発も行いました。

また最近の傾向としては、日本酒の取り扱いも非常に増えており、日本食文化の人気とともに、食とのマリアージュで日本酒を楽しまれる方が増えているように感じます。弊社は酒蔵とオリジナルの日本酒開発に取り組んでおり、純米大吟醸や純米吟醸をこだわりの製法と、高級感のあるラベルパッケージにすることでオリジナル化し、品揃えしております。特に純米大吟醸「龍龍龍龍」(てつ)はボトルのデザインと“龍”が縁起も良いことから、多くのご注文をいただいております。

最後に、今後の取り組みとして、まずはブランディングに更なる力を入れて取り組んで行き、日本のギフトといえば「リンベル」と覚えていただき、取り扱いアイテムも香港の方々に喜んでもらえるギフト商品の開発を進めて参ります。日本が世界に誇れる素晴らしい農畜産物や海産物を香港のみならず、世界の方々に楽しんでいただける取り組みを今後も発信していきたいと考えております。



HOKKAIDO

北海道日本香港協会

北海道日本香港協会 事務局

依然高い北海道人気

大家好！ここ最近、当協会での大きな活動が無かったため、北海道における経済交流活動などについて、記載していきたいと思えます。

前号ではアフターコロナへの期待をもって寄稿させて頂きましたが、先日香港から良いニュースが飛び込んできました。

「香港旅客1千万人越え」～香港政府は、1-5月の香港旅客が1千万人を越えて、コロナウイルス流行前の4割まで回復したとの発表がありました。また、香港政府観光局（Hong Kong Tourism Board）が「ハロー香港」と銘打ったキャンペーンを実施するとともに、コロナ後のリベンジ消費を期待し、無料航空券を全世界合計50万枚配布する「香港国際空港 World Of Winners」が開催されました。日本からの出発分は6月26日から配布が始まっていたようです。会員の方で申し込まれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

北海道での人気の観光地の一つである登別市は市内観光客数が233万人を超えたと発表。このうち、インバウンドは10万人を超え、前年を大幅に超えた模様です。国地域別に見ますと、韓国が5万人、台湾1万8,000人、香港1万4,000人と続きます。北海道の観光地1か所を見るだけでも、香港の方の北海道人気を窺い知ることができます。

観光庁の発表によりますと、2023年1-3月期国籍・地域別にみる訪日外国人消費額1兆103億円のうち、香港は1,092億円（10.8%）で3位（2019年は4位）となっています。また、1人1泊当たり費目別旅行支出の買物代を含む観光・レジャー目的のみとした場合、当該期において1位となっており、ビジネスのヒントがあるかもしれません。

北海道から香港への進出ニュース

香港・旺角（モンコック）に北海道でも大人気のスープカレー店「Suage Hokkaido Soup&Curry」がオープンしました。

「Suage」は日本の雑誌や旅行サイトのランキングで常に上位に入っている有名店です。「手間ひまかけたこだわりのスープ～Suageこだわりのスープは玉ねぎを8時間以上かけてじっくり炒めたものをベースに鶏ガラの旨味やトマトの酸味を加えた、クセのないスープです。素揚げで旨味を凝縮！こだわりの食材～具材は道産インカのみめざめをはじめ、収穫時期には自社農園産のものを中心に使用。それらを店名の通り“素揚げ”することで素材ひとつひとつの旨味を引き立てます。野菜の奥深い旨味とスパイスがきいた飽きのこない一皿です」（同社ホームページより引用）。

ホームページ掲載文を読むだけで食べたくなりますね。



北海道と香港を繋ぐ経済活動を含めた相互の行き来が活発になっています。今後ますますの交流があることを期待しています。

Hello Hong Kong

Biggest Welcome

- 1. A joint greeting to say Hello to the world**

Celebrities, business leaders and Hong Kong Super Fans say Hello together
- 2. City-wide offers welcoming visitors**

1M+ city-wide offers

500K free air tickets
- 3. Two-way Hong Kong promotion**

Invite incoming guests to experience HK in person

Lead trade delegates for outreach promotions
- 4. Year-round event calendar and opportunities**

250+ City happenings

100+ MICE events

HONG KONG TOURISM BOARD
香港旅遊發展局



「香港ビジネスディナーセミナー2023」を開催

5月26日(金)17時から「宮城日本香港協会の通常総会」、そして17時30分からは香港貿易発展局との共催による「香港ビジネスディナーセミナー2023」を「パレスへいあん」に於いて開催しました。宮城県、仙台市、仙台商工会議所からご来賓を迎え、約80名の参加者を得て盛大に開催することができました。



小野寺会長挨拶

ディナーセミナーでは、小野寺初正会長の挨拶で幕を開け、香港貿易発展局日本首席代表ベンジャミン・ヤウ氏による歓迎の挨拶の後、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部日本次席代表アンドリュー・ファン氏のビデオメッセージによる来賓挨拶、そして宮城県からは宮城県経済商工観光部佐藤健二副部长、仙台市からは柳津英敬経済局長がご出席、宮城県知事、仙台市長からの祝辞をそれぞれ代読され、宮城県議会議員外崎浩子氏の乾杯の挨拶で始まりました。

美味しい食事をご馳走になりながら、香港でのビジネスに関してご講演を頂きました。



ベンジャミン・ヤウ氏祝辞



主催者・来賓の集合写真

はじめに登壇されたのが味珍味（香港）有限公司の会長・フランキー・P・ウー氏です。「香港における日本産米及び水産品の販売や市場展開の可能性について」と題して講演、香港における日本産米の消費拡大に、市場の展開が大きくなる様子が見て取れます。

次に登壇されたのが（株）CogSmart社長室医師の中村匠汰氏、「東北大発スタートアップコグスマートの香港進出の経緯」と題して講演、香港での留学経験話、そして香港は世界でも有数の高齢社会であり認知症予防に対する強い関心があることから、今後香港を軸として研究開発を進めていきたいと、会社のこれからの目標等を紹介されました。



フランキー・ウー氏の講演

その後、香港貿易発展局東京事務所長・伊東正裕氏による事業紹介があり、最後に当協会の大坪富雄代表理事による閉会の挨拶で終了しました。

食事をしながらのセミナーに、沢山の方々との会話で盛り上がり、楽しい時間もあっという間に過ぎたように感じました。

OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会

沖縄県香港事務所より香港で開催されました沖縄関連イベントの情報を提供致します。

沖縄 夏スイーツフェア開催

香港イタリアントマトでは、「沖縄サマースイーツフェア」をテーマに、沖縄レモンタルト、沖縄シュレッドパイナップルなど、沖縄直送の沖縄パイナップルと沖縄レモンを使用した特製ケーキ3種を、6月9日から7月16日までの夏限定で発売しました。

沖縄レモンタルトは、自家製アーモンドタルト生地を使用し、フレッシュでナチュラルな沖縄レモンジャムと、はちみつレモンチーズクリームを添えた、夏らしい味わいです。沖縄産細切りパイナップル黒糖ケーキは、沖縄産黒糖スポンジケーキに沖縄産パイナップルジャムとピニャコラダムースを使用しています。最上層には沖縄産シュレッドパイナップル、パイナップル風味のクリーム、沖縄産黒糖クリームを重ね、濃厚な味わいに仕上げました。沖縄黒糖ムースケーキは、自然の香りを残した沖縄黒糖ケーキに沖縄産シュレッドパイナップルを加え、爽やかでフルーティな香りとはんわり黒糖の香りが夏にぴったりな商品です。



イタリアントマト 沖縄夏スイーツフェア

期間中は「沖縄夏祭り」商品を購入すると、「沖縄星砂キーホルダー」がプレゼントされるなど、沖縄の夏のイメージを盛り上げました。今後も香港で沖縄のフルーツのイメージアップが期待されます

イタリアントマト 沖縄サマースイーツフェア

日時：2023年6月9日～7月16日

場所：香港イタリアントマト

日本沖縄物産まつり開催

6月28日から7月13日まで、馬鞍山で「日本沖縄物産まつり」が開催されました。人気の沖縄ベルガモット（シークワサー）をはじめ、沖縄料理のレトルト食品、沖縄そば、焼餃子などの沖縄の食品が展示・即売されました。また、紅芋タルトなどの沖縄のお菓子やドリンクも豊富に取り揃えて、沖縄直送の新鮮な産品に直



日本沖縄物産まつり

接手を触れて購入できる貴重な機会となりました。

日本沖縄物産まつり

日時：2023年6月28日～7月13日

場所：シティストアー馬鞍山店3階展示ホール

香港国際旅行博覧会に 沖縄県がブースを出展

6月17日～6月18日（土・日）に香港国際旅行博覧会が開催され、今回は沖縄県も参加し、最新の沖縄旅行情報を香港の方々に提供しました。コロナ禍でも新たにオープンしたリゾート・シティホテルや様々な体験アクティビティなどの観光パンフレットはもちろん、沖縄マップ、ダイビングパンフレット、離島パンフレットなどの多くの観光情報を提供しました。今回は、城紅型染工房、セルリアンブルー沖縄、プレスタイム沖縄など、沖縄の企業が直接様々なサービスを紹介するために香港を訪問、沖縄の観光の魅力を直接アピールしました。

現在、沖縄・香港間は、香港航空が1日2便、香港エクスプレス航空が1日1便就航しています。更に香港エクスプレス航空は、香港・石垣便の就航を予定していますが、空港のグランドスタッフの



香港国際旅行博覧会 沖縄ブース

確保ができず就航の目途が立っていません。今後も増えることが期待される香港からの観光客に対応すべく、人材の確保が求められています。

香港国際旅行博覧会

日時：2023年6月17日～18日

会場：香港コンベンション&エキシビションセンター

2023年 香港スポーツ・ レジャー・エキスポに出展

7月19日から25日の日程で香港ブックフェアと同時開催された香港スポーツ・レジャー・エキスポのジャパンパビリオンには沖縄からもブースが出展されました。ジャパンパビリオンではかつての日本の古い町並みの雰囲気再現した「没入型日本伝統文化体験パビリオン」とし、大型モニターを使ったプロモーションビデオの上映や様々なパフォーマンスが披露されました。

香港ブックフェアは、単なる書籍の見本市から、世界の文化・ライフスタイルを発信する幅広いイベントとなっており、香港でも年々来場者が増えています。

香港からのリピーターが増えるよう、新たな沖縄の魅力的な文化やライフスタイルを発信する場となりました。



広島日本香港協会令和5年度通常総会

令和5年7月27日(木)、広島日本香港協会令和5年度通常総会をオリエンタルホテル広島にて開催いたしました。ホテルでの開催は、令和元年度以来、実に4年ぶりとなりました。

本年5月に新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類に変更され、経済活動が活発になるとともに、広島を訪れる外国人観光客が増加し、外国人を街中で見かけることが増えてきております。

さて、本年度の通常総会は、法人46会員、個人7会員、合計53会員のうち、14会員27名参加のもと行われました。昨年度に比べ、参加者も増え、コロナ前の状況に戻りつつあります。



総会の様子

通常総会の冒頭、開会挨拶として当協会の池田晃治会長から、「5月には、G7サミットがここ広島で開催され、経済界や行政等が一体となったオール広島県で様々な取組を行い、成功裏に終わることが出来たところでございます」との発言がありましたように、全世界の注目が広島に集まりました。引き続き、香港のみならず、全世界の方々が広島を訪れ、平和について考え、そして広島の良いさに触れていただくことを願っております。

続いて、令和4年度事業報告及び令和4年度決算報告、令和5年度事業計画案及び令和5年度予算案について審議し、満場一致で承認されました。

その後、来賓としてお越しいただいた、香港貿易発展局のリック・フォン大阪事務所長によるご講演が行われました。

ご講演では、「日本のメディアでは報道されない香港の今と将来」というタイトルのもと、お話いただきました。講演内容として、「香港の今～日本産コメと鶏卵に対する需要拡大」、「香港の発展計画～人材の誘致」、「香港の発展計画～都市計画」、「香港の発展計画～北部都会

区発展計画」、「香港の発展計画～エアポート・シティ」などについて、解説いただきました。

「香港の今」として、スイカや鶏卵などの日本の生鮮食品が人気である点、出汁や総菜、珈琲等を取り扱う様々な日本企業の香港への出店が活発である点など、香港の方々にとってこれまで以上に日本の食が身近になっていることを知り、驚きと共に喜ばしく感じられました。

また、「香港の発展計画」として、“トップタレントパス”という世界中のハイレベル人材を香港に誘致する制度など、香港が発展・成長するための計画などお聞きし、実際現地に赴き、目にする事への興味が湧きました。

総会後の交流会実施

昨年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、通常総会のみを実施し、交流会の実施を断念しましたが、今年度は無事実施することができました。

交流会では、田邊昌彦副会長と川崎育造理事から挨拶があり、来賓の香港貿易発展局、会員の皆様との交流を深めました。また、会の途中において、昨年度の総会以降に新規会員となった、ホープバス協同組合の代表理事である堀田高広様よりご挨拶がありました。

交流の中では、「インバウンド観光客に対して、広島の有名な観光地以外をどのようにPRして、取り込んでいくのが良いのか」、「自社企業の若手社員へセミナーを実施してほしい」、「香港フォーラムへぜひ参加したい」などのご意見があり、会員間での活発な意見交換が行われました。

引き続き、当協会では、会員の皆様と香港との相互理解と友好を促進し、経済の交流を図るための活動を展開していきます。まずはこの12月の香港フォーラムに向けて、多くの会員にご参加いただけるよう、準備を進めてまいります。



交流会の様子

新潟日本香港協会 令和5年度講演会・懇親会を開催

新潟日本香港協会では、去る5月23日(火)にANAクラウンプラザホテル新潟にて、令和5年度通常総会、講演会および懇親会を開催いたしました。今回はその実施のご報告をさせていただきます。

ようやく新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き始め、久々に対面式で開催することができ、通常総会・懇親会には20名強、講演会には30名弱の方々にご参加いただきました。お集まりいただいた皆様、また香港貿易発展局の皆様をはじめとする関係者の皆様、この場を借りて改めて深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



講演会—歓迎挨拶

通常総会は当協会吉田至夫会長の開会挨拶に始まり、令和4年度事業報告、収支報告、監査報告、そして今年度の事業計画及び収支予算の承認という流れでご説明をいたしました。最後に交代を含めた本年度の役員人事構成についても、皆様よりご承認をいただきました。

続けて講演会では、改めて吉田会長に開会挨拶をいただき、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ首席代表より歓迎挨拶、そしてビデオにて次席代表のアンドリュー・ファン様より香港でのビジネスの可能性や現地情報を踏まえた来賓のご挨拶も賜りました。講演は、株式会社トライウェイ代表取締役木村直人様を講師としてお迎えし、「香港における県産品輸出の可能性」についてお話しいただきました。木村様は総合商社にて東京および米国駐在での11年間の勤務経験を経て、香港で経営学修士号・MBAを取得されたご経歴をお持ちです。そして新潟へUターンをされ、ご実家の温泉施設経営を担い、その後2017年に株式会社トライウェイを設立されました。地域商社として「新潟から世界へ」を合言葉に、県産品の

輸出やインバウンド事業を通して新潟の魅力を世界に発信し続けていらっしゃいます。講話では、香港への輸出における取引形態から実現に向けたアプローチ方法等について、海外事業展開をしている株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスを一例にご説明いただきました。同社は国内外でドン・キホーテやアピタ等の店舗展開をされており、DON DON DONKI 香港では2023年1月に日本酒のテスト販売を実施されました。その際の売り場の様子や実際のスケジュールについて写真を交えてお話しいただき、参加された方々は具体的なイメージをお持ちいただけたよううかがえました。参加者より「香港では今どのような食材が求められているか」という質問があがり、やはり日本酒やお米等日本の食材の需要は高まっているとご回答いただきました。新潟県米の輸出先の割合は令和3年時点でヨーロッパ14.3%、シンガポール14.0%に次いで香港が13.7%という県農林水産部調べからも、今後の新潟県産品輸出の可能性を強く感じることができました。

講演後には、対面式で夕食を兼ねた懇親会を開催することができ、しばらくお会いできていなかった分、はつらつとした笑顔でお食事されている皆様が印象的でした。香港貿易発展局を始め、新潟県、駐新潟総領事館、農業、建設業、警備事業、教育事業、通信事業、旅行事業等、多種多様な業界関係者が一堂に会し、皆様が交流を深めるきっかけになったとしましたら、事務局として大変喜ばしく思います。

また、今年は12月5日(火)～12月6日(水)に第24回香港フォーラム 2023へ「新潟日本香港協会」として参加を計画しています。実現すれば、2019年以来、久々の参加となるので、コロナ禍で思うように動くことができなかった皆様の第一歩となるよう事務局として全力でサポートさせていただきたいと考えております。一人でも多くの方々が、香港で新たな活躍をされることを私共も心からご祈念申し上げます。



懇親会—乾杯



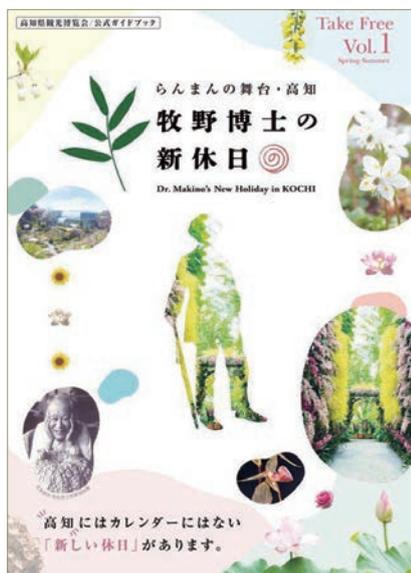
『らんまん』で賑わう高知県

日本列島は各所において連日のように猛暑が記録され、台風や線状降水帯など自然災害の影響により、各協会の皆さまにおかれましては大変厳しい夏をお過ごされたことと存じます。

GW以降、人出の増加も目覚ましく、各所では観光客も目に見えるほど回復をしていると感じております。高知県におきましては、GW前より、NHK連続ドラマ小説『らんまん』の放映がはじまり、現在ちょうど終盤に差し掛かったあたりでございます。世界に誇る、高知県出身の植物学者、牧野富太郎博士を主人公とし、主演俳優、神木隆之介さんをはじめ、人気俳優の方々が素晴らしい土佐弁と演技を披露しており、会員の皆さまの中にもご覧になられている方も多いかと存じますが、その影響もあり高知県は大変多くの観光客で賑わいをみせております。

「日本の植物学の父」とも云われる牧野富太郎博士は、高知県佐川町という山間の町で生まれ育ち、幼い時から野山を駆け巡られたそうで、植物標本の作製は実に40万枚にもものほり、命名した植物も1,500種類を超えるそうです。40万枚の標本作製、1,500の新種を発見するのは並大抵の努力では成し遂げないの言うまでもありませんが、類まれな絵画の技術や、努力の末身に付けた印刷技術なども駆使した成果です。また研究を重ねる過程においては、学歴のない身分から受ける差別や弊害、書物の購入などにあてる多額の借金、それでも良き妻との出会いと多くの子宝に恵まれるなど、まさに波乱万丈の人生。牧野富太郎博士の逸話やその生涯は、それらに触れる多くの方々に魅了しています。

生誕の地、佐川町には幼少の頃に駆け回った横倉山や、多くの歴史的書物が保管されている青山文庫、縁の深い酒蔵など、とても見応えがあります。また高知市内の五台山には、自然豊かな牧野植物園もあり、十二分にお楽しみいただけます。牧野富太郎博士ゆかりの地を巡り、豊かな自然と美味しい料理を楽しむに是非とも高知へいらしてください。



牧野博士の新休日



総会後の懇親会

本年度はより活発に活動

さて、過日7月21日には、2023年度の総会を、高知協会の徳弘誠副会長が手掛けるレストランJにおいて、延期や中止をせず久しぶりの通常開催することができました。高知協会の現状でございますが、コロナ以前まで会員数も年々増加をし、2017年《Outstanding Membership Award》最優秀賞、2018年《Success Story Award》最優秀賞、2019年《Outstanding Membership Award》最優秀賞と、香港フォーラムアワードプログラムにおいては、3年連続でアワードを受賞するなど、活発な活動を展開してまいりました。しかしコロナ以降、退会者が相次ぎ、大変無念ではありますが、2022年度末時点では法人個人合わせて45名まで減少してしまいました。各協会の動向につきましても非常に気になるころでありますので、事務局長会議などを通じ是非とも情報交換をさせていただければと思います。

本年度におきましては、より活発に活動していきたいと考えており、今秋には3年以上実施できていない香港ビジネスツアーも計画しております。メディアやSNSでの情報には疑問も多く、香港の現状や現地の雰囲気など、実際に現地へ赴き、香港協会関係者や和僑会の皆さまとの意見交換を通じて、今後のビジネス展開を図ってまいります。

また、昨年実施した九州研修ツアーにおいては協会関係者を通じたツアーコーディネーターがとても好評でしたので、本年度においても各地協会の皆さまの地域を訪ねることができればと考えております。その際には意見交換や懇親会など、交流の機会をいただけますよう、ご協力を是非よろしくお願いたします。

まだまだ暑さの厳しい時期が続きますし、台風や豪雨など自然災害の心配もございますが、各協会の皆さま方におかれましては、くれぐれもご自愛いただきますよう、心よりお祈り申し上げます。



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オトル内

新しい決済サービスでおトクな毎日を。

C ポン

全国の加盟店・ネットショップで、

いつでも**20%以上おトク**な

新しい決済サービスです。



おトクな C ポンの会員登録はこちら。
登録はとってもカンタン!チャージして今すぐ使えます!

100万人突破
キャンペーン中 **今なら500円分のCポンプレゼント!!**

